4　道央部における続縄文初頭～後北式期の墓制－土坑墓の分析

Ｐ26は柱穴様土坑・土器入りの袋状土坑をもつ。道央における類例は後北Ｃ$_2$・Ｄ式（古）期の恵庭市柏木Ｂ遺跡36号土坑墓を含めて２例となった。両付属施設をもつ例は極少数であるが、円形・刺突文土器群期に入ると増加をみる（鈴木1999）。後北期の例は初源と言える。付属施設の組合わせと消長から墓構造の系譜を考察する。対象地域は日高・胆振東部・石狩・後志・空知。対象とした墓（**表２**）は時期が判明するものとし、時期は主体（坑底資料が過半を占める場合か、総数で過半を占める場合をいう）となる副葬土器で決定した。なお、時期細分（**表１**参照。以下、道央在地系土器と恵山式との属性交換の関係において、H37丘珠期～H37栄町期・古とアヨロ１式期を「未然期」、H37栄町期・新～後北Ｂとアヨロ２ａ～３ａ式期を「進行期」、後北Ｃ$_1$～後北Ｃ$_2$・Ｄを「完了期」と呼ぶ。）の根拠と土器器種名は「道央部における続縄文土器の編年」（鈴木2003）による。

⑴　主体部構造（表３・４）

下端の長/幅≧0.8：円･隅丸方･方形、0.8＞下端の長/幅0.5≧：楕円･隅丸方･小判･方形、0.5＞下端の長/幅：長楕円･隅丸長方･小判･長方形と分類した。舟形は比では長楕円形に含まれる（**表３**）。

道央在地系土器が副葬される墓（以下、「在地系」）では、未然期～完了期を通じて、円・楕円形が主体を占める。隅丸方形は江別太２式期に、舟形土坑は後北Ｃ$_2$･Ｄ式（古）期に、隅丸長方形は後北Ｃ$_2$･Ｄ式（中）期に出現する。恵山式土器が副葬される墓（以下、「恵山系」）では、アヨロ１～３ｂ式期を通じて、円・楕円形が主体を占め、長楕円・隅丸方形がある。青野の平面形態分類（1999）によれば、縄文晩期では円・楕円形が主体を占め、隅丸方・小判形が存在する。図示された隅丸方形の下端平面形は小判形と認められるので縄文晩期の下端平面形には円・楕円・小判形が存在するといえる。円・楕円・小判形は縄文晩期～後北式期にかけて在地系・恵山系の双方において標準的な形態である。

在地系における隅丸方形の採用は、恵山系の紅葉山33・元江別１遺跡（アヨロ２ｂ式期）あたりからの影響と考えられる。恵山系の隅丸方形は道南から波及したと考えられる。舟形土坑は初例が在地・恵山系になく十勝若月遺跡の後北Ｃ$_1$（中）の土坑24にあるので道東から波及したと考えられる。

埋葬姿勢が確認できる例（**表４**）においては円・楕円形に偏る。円・楕円形の出現比と埋葬姿勢の出現比がほぼ同じことから、特定の姿勢が特定の下端平面形と関係したといえない。くわえて、後北Ｃ$_2$･Ｄ式期には異なる下端平面形で等しく側臥屈葬が盛行する。以上より、埋葬姿勢が下端平面形の選択と下端平面形変化の原因となっていない。

表Ⅶ－４－１　時期区分と型式の対照

<table>
<tr><th>北海道の時期</th><th>西　　暦</th><th>道南の土器型式</th><th colspan="3">道央の土器型式</th><th colspan="2">道東北の土器型式</th></tr>
<tr><td>縄文晩期・後葉</td><td>前６世紀前葉～前６世紀後葉</td><td>聖山Ⅱ式</td><td colspan="3">タンネトウＬ式</td><td colspan="2">幣舞式</td></tr>
<tr><td rowspan="2">続縄文・前葉</td><td>前５世紀前葉～（前５世紀後葉）</td><td>日ノ浜式（尾白内１群）</td><td colspan="3">鳩山式・氷川式</td><td colspan="2">緑ヶ岡式</td></tr>
<tr><td>前４世紀前葉～前３世紀中葉</td><td>兜野式（尾白内２群）</td><td>H37丘珠
（大狩部式～琴似式）</td><td colspan="2">（大川ＪＨ－4）
（H37丘珠第1号竪穴）
（H37丘珠第1号竪穴状）</td><td>フシココタン下層式、
メクマ式</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">続縄文・中葉</td><td>前３世紀後葉～前２世紀中葉</td><td>下添山式
アヨロ１式</td><td>H317
アヨロ1式</td><td rowspan="2">H37栄町</td><td>（H317中央3･北群ⅡＢ～Ｅ）
（H317中央1･北群ⅡＣ）
（H37栄町第1号竪穴）</td><td rowspan="2">興津式</td><td rowspan="2">元町２式</td></tr>
<tr><td>前２世紀後葉</td><td>（西桔梗B2）アヨロ2ａ式</td><td>アヨロ2ａ式</td><td>（H38栄町包含層）</td></tr>
<tr><td>前１世紀前葉</td><td>（南川Ⅲ群）アヨロ２ｂ式</td><td>アヨロ２ｂ式</td><td colspan="2">江別太１式</td><td rowspan="2">下田ノ沢Ⅰ式</td><td>宇津内Ⅱａ１式</td></tr>
<tr><td rowspan="2">（前１世紀中葉～後１世紀前葉）</td><td rowspan="2">（南川Ⅳ群）アヨロ3ａ式</td><td rowspan="2">アヨロ3ａ式</td><td colspan="2">江別太２式</td><td rowspan="2">宇津内Ⅱａ２式</td></tr>
<tr><td>後北Ａ式</td></tr>
<tr><td>（後１世紀中葉・後１世紀後葉）</td><td>アヨロ３ｂ式</td><td>アヨロ3ｂ式</td><td colspan="2">後北Ｂ式</td><td>下田ノ沢Ⅱ１式</td><td>宇津内Ⅱｂ１式</td></tr>
<tr><td rowspan="8">続縄文・後葉</td><td>（後２世紀前葉～後２世紀後葉）</td><td colspan="5">後北Ｃ１式</td><td>下田ノ沢Ⅱ２式</td><td>宇津内Ⅱｂ２式</td></tr>
<tr><td>（後３世紀前葉）～後４世紀中葉</td><td colspan="7">後北Ｃ$_2$・Ｄ式</td></tr>
<tr><td>後４世紀中葉／後４世紀後葉</td><td colspan="7">後北Ｃ$_2$・Ｄ式／円形・刺突文土器群Ⅰ～Ⅱ</td></tr>
<tr><td>後４世紀後葉・後５世紀前葉</td><td colspan="7">円形・刺突文土器群Ⅱ～Ⅲ</td></tr>
<tr><td>後５世紀中葉・後５世紀後葉</td><td colspan="7">円形・刺突文土器群Ⅳ～Ⅴ</td></tr>
<tr><td>後６世紀前葉～後６世紀後葉</td><td colspan="7">円形・刺突文土器群Ⅵ～Ⅷ</td></tr>
<tr><td>後７世紀前葉・後７世紀中葉</td><td colspan="7">円形・刺突文土器群Ⅸ～Ⅹ</td></tr>
<tr><td>後７世紀後葉</td><td colspan="7">円形・刺突文土器群ⅩⅠ</td></tr>
<tr><td>擦文･前期</td><td>後８世紀前葉</td><td colspan="7">円形・刺突文土器群ⅩⅡ／擦文土器</td></tr>
<tr><td>擦文・前期</td><td>後８世紀中葉～後９世紀前葉</td><td colspan="7" rowspan="2">擦文土器</td></tr>
<tr><td>擦文・中期以降</td><td>後９世紀中葉以降</td></tr>
</table>

道東北の型式は、熊木俊朗「下田ノ沢式土器の再検討」『物質文化69』（2002）を引用した。後北Ｃ$_2$･Ｄ式以前の西暦は道央の^{14}Ｃ年代値。（　）付きの西暦は予想値である。

表Ⅶ－４－２　続縄文初頭～後北式期の墓

番号	地域名	遺跡名	遺構名	遺構の時期	編著者名など	刊行年	書名など
1	白老町	アヨロ	墓19・22・24・26・106・110・115・301・307/1・2ａ・3・15・16・30・109・111・201・204・304/4ｂ・5・8・11・18・25・101・103・108・203・205/23・32・202・303・土坑33 墓105	アヨロ1/アヨロ2ａ/アヨロ２ｂ/アヨロ3ａ 後北Ｂ	白老町教育委員会	1980	
2	苫小牧市	タプコプ	大場1号墳/ＧＰ－27・29・30・36・38/17・31・39・40 ＧＰ－2 ＧＰ－18 ＧＰ－7・8・10・11・12・13・14・20・21・24・25・28・33、Ｐ－8・13	H37栄町/アヨロ2ａ/アヨロ２ｂ 後北Ｂ 後北C_1 後北C_2・Ｄ	苫小牧市教育委員会	1981	
3		静川22	Ｇ－4・13・16/5・15 Ｇ－9/12・21 Ｇ－14	アヨロ1/アヨロ2ａ H317/H37栄町 江別太2	苫小牧市教育委員会	2002	
4	三石町	旭町１	ＳＰ－139・140・178・189・190・212	H37丘珠	北海道埋文センター	1983	
5	千歳市	ウサクマイＮ	ＩＰ－25	後北C_2・Ｄ	北海道埋文センター	2001	
6		末広	ＩＰ－102	後北C_2・Ｄ	千歳市教育委員会	1981	末広遺跡（上）
7			ＩＰ－31	後北C_2・Ｄ	千歳市教育委員会	1982	末広遺跡（下）
8		オサツ２	ＧＰ－5・6・7・8、Ｐ－5 ＧＰ－1・2・3	後北Ａ 後北Ｂ	北海道埋文センター	1995	
9	恵庭市	柏木Ｂ	第268/3・17・36・39・48・60・67・71・78・80・115・151・152・190・202・216・218・241・247・265・280・309・314・316・385・395・402・435号土坑墓	後北C_1/後北C_2・Ｄ	恵庭市教育委員会	1981	
102		柏木川13	Ｐ26	後北C_2・Ｄ	北海道埋文センター	2004	柏木川13
10		茂漁６	Ｐ－1・9・15・16・22・26	後北C_2・Ｄ	恵庭市教育委員会	2000	
11	江別市	萩ヶ岡	墓109 墓112	後北Ａ 後北Ｂ	江別市教育委員会	1982	
12		町村農場１	Ｐ－44	H137	江別市教育委員会	1994	町村農場１（３）
13		町村農場２	Ｐ－110・111 Ｐ－115・128・140 Ｐ－54・55・70	江別太2 後北Ａ 後北C_2・Ｄ	江別市教育委員会	1995	町村農場２（２）
14			Ｐ－35	江別太2	江別市教育委員会	1994	町村農場２（４）
15		高砂	Ｐ－358	H317	江別市教育委員会	1989	高砂（５）
16			Ｐ－478・482	H37丘珠	江別市教育委員会	1990	高砂（６）
17			Ｐ－629・693/630	H37丘珠/H317	江別市教育委員会	1991	高砂（８）
18			Ｐ－876・880	H317	江別市教育委員会	1991	高砂（９）
19			Ｐ－914	H37丘珠	江別市教育委員会	1992	高砂（10）
20			Ｐ－1195	H37栄町	江別市教育委員会	1998	高砂（15）
21			Ｐ－1231/1290	H37丘珠/H37栄町	江別市教育委員会	1999	高砂（16）
22		元江別１	墓1・43/2・13・16・21・34・38・39・46・62・66・67・68・73/19・48・53・56・59・72/15 墓14・47/18・44・45・51・58・61・64	アヨロ1/アヨロ2ａ/アヨロ２ｂ/アヨロ3ａ H317/H37栄町	江別市教育委員会	1981	元江別遺跡群
23			Ｐ－77	江別太1	江別市教育委員会	1988	元江別１
24		元江別10	Ｐ－33	後北C_2・Ｄ	江別市教育委員会	1989	
25		旧豊平河畔	Ｐ－6 Ｐ－9 Ｐ－7	H37丘珠 江別太1 後北Ａ	江別市教育委員会	1981	元江別遺跡群
26			墓1・18/10・23・24 墓5・6	アヨロ2ａ/アヨロ２ｂ 江別太1	江別市教育委員会	1983	豊平河畔Ⅱ
27			土坑97/91 土坑126 土坑85・102 土坑36	アヨロ２ｂ/アヨロ3ａ H37栄町 江別太2 後北Ａ	江別市教育委員会	1984	豊平河畔Ⅲ
28			墓135・142/132・155・174・186 墓133・156・164・165・166・168・171・175・176・178・179・180・182・183・184・185・187・188 墓137	江別太1/江別太2 後北Ａ 後北C_2・Ｄ	江別市教育委員会	1985	豊平河畔Ⅳ
29			土坑8－126－7 土坑8－130－1	アヨロ２ｂ 江別太2	江別市教育委員会	1986	豊平河畔Ⅴ
30		七丁目沢４	Ｐ－49	H317	江別市教育委員会	1989	七丁目沢４（２）
31		七丁目沢６	Ｐ－138・167	H37丘珠	江別市教育委員会	1998	七丁目沢６（５）
32		大麻21	Ｐ－44	後北C_2・Ｄ	江別市教育委員会	1988	大麻21（２）
33		大麻３	Ｐ－76・122・129/128	H37丘珠/H37栄町	江別市教育委員会	1998	大麻３（６）
34			Ｐ－106/240	H317/H37栄町	江別市教育委員会	1999	大麻３（７）
35	札幌市	Ｓ153	第91号ピット 第253号ピット 第68・200・225・380・421・456・457・474・476・490・528・539・600・601・616・673・749・781号ピット	アヨロ２ｂ 後北Ａ 後北C_2・Ｄ	札幌市教育委員会	1976	
36		Ｔ361	第19・42・97・100・114号ピット	後北C_2・Ｄ	札幌市教育委員会	1987	
37		Ｓ354	第4号ピット	後北Ｂ	札幌市教育委員会	1982	
38		Ｎ199	第2・19号ピット	後北C_2・Ｄ	札幌市教育委員会	1977	
39		Ｎ295	第13・36号ピット 第25/1・27号ピット	アヨロ２ｂ 江別太1/江別太2	札幌市教育委員会	1987	
40	石狩市	紅葉山33	7号竪穴 3号竪穴	H317 江別太1	石狩市教育委員会	1975	
41			ＧＰ－62/1・51・52・54/3・5・22・26・27・37・38・43・50・53/59 ＧＰ－57/2・42・56・63 ＧＰ－19/55・46	アヨロ1/アヨロ2ａ/アヨロ２ｂ/アヨロ3ａ H317/H37栄町 江別太1/江別太2	石狩市教育委員会	1981	
42		ワッカオイ・Ａ	第2・3・5土坑墓	後北C_2・Ｄ	石狩市教育委員会	1975	
43		ワッカオイ・Ｄ	第1・2・3・9・11・14・15・16・17・20土坑墓・5号土坑	後北C_2・Ｄ	石狩市教育委員会	1976	
44			第21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・32・33土坑墓	後北C_2・Ｄ	石狩市教育委員会	1977	
45	芦別市	滝里４	Ｐ－5	H37丘珠	北海道埋文センター	1998	
46		滝里安井	Ｐ－45	H37丘珠	北海道埋文センター	1999	
47	小樽市	チブタシナイ	3－9Ａ・Ｂ	後北C_2・Ｄ	小樽市教育委員会	1992	
48		餅屋沢	9－28Ａ・39Ａ・39Ｃ・44Ｂ・45Ａ・45Ｆ・46Ｂ・47Ａ、10－36Ｃ・37Ａ・38Ａ・38Ｄ・39Ｂ・40Ａ・44Ａ・44Ｂ・47Ａ、11－37Ｊ・38Ａ・38Ｄ・39Ｅ・39Ｆ・40Ａ・41Ａ・41Ｂ・43Ａ・45Ｃ・46Ｈ・47Ｃ・49Ａ、12－34Ｃ・37Ｃ・38Ａ・38Ｃ・38Ｅ・38Ｆ・40Ｆ・41Ｇ・41Ｈ・45Ａ・45Ｃ、13－39Ｆ・40Ａ・40Ｄ・40Ｅ・40Ｆ	後北C_2・Ｄ	小樽市教育委員会	1991	大川Ⅰ
49	余市町	大川	ＧＰ－85・195/27・82・120・123・175・359/28・72・75・100・107・109・116・125・425/21・163・243・373・375・378・400・422・457・489・548・590 ＧＰ－218/390 ＧＰ－518/88・179・200 ＧＰ－142 ＧＰ－7・110	アヨロ1/アヨロ2ａ/アヨロ２ｂ/アヨロ3ａ H317/H37栄町 江別太1/江別太2 後北Ｂ 後北C_2・Ｄ	余市町教育委員会	2000	大川Ⅱ
50			ＧＰ－676・686・853/620・711・720・729・856・941/623・948 ＧＰ－944 ＧＰ－945/916 ＧＰ－854・922	アヨロ2ａ/アヨロ3ａ/アヨロ3ｂ H37栄町 江別太1/江別太2 後北Ａ	余市町教育委員会	2000	大川Ⅲ
51			ＧＰ－42・87・91・348Ａ/78・79・89・105・131・133/118・348Ｂ・372・448・454・593	アヨロ2ａ/アヨロ２ｂ/アヨロ3ａ	余市町教育委員会	2001	大川Ⅳ
52			Ｐ－44・17（道道地点）/30・32・53/18・59 Ｐ－68 Ｐ－9（道道地点）	アヨロ1/アヨロ2ａ/アヨロ3ａ H37栄町 江別太2	余市町教育委員会	2001	大川
53			Ｐ－126（道道地点）/77・83・84・91・98・122（道道地点）/89・76・128・104（道道地点） Ｐ－34/100・118（道道地点） Ｐ－95 Ｐ－63 Ｐ－88・93 Ｐ－94	アヨロ1/アヨロ2ａ/アヨロ２ｂ H37丘珠/H37栄町 江別太2 後北Ａ 後北Ｂ 後北C_2・Ｄ	余市町教育委員会	2002	大川
54		天内山	8号墳墓 2・6号墳墓	後北Ｂ 後北C_1	余市町教育委員会	1971	天内山

主体部構造は殆んどが土坑である。唯一、紅葉山33号遺跡 GP-38（アヨロ２ｂ式期）に木槨痕跡がある。これは坑底面が隅丸方形の両長辺に２本の平行した溝として遺存していた。同じ例は、西島松５遺跡･円形刺突文土器群期Ⅷ～Ｘ期のＰ-4･21･39･93（小判･隅丸方･方形）があるので、アヨロ２ｂ式期以降継続した構造である。この他、蘭島餅屋沢遺跡の土坑墓に褐鉄鉱膜が遺存する例がある。褐鉄鉱膜は遺体痕跡よりも広い範囲に分布し、遺体の下位に検出される。また、褐鉄鉱膜は下端平面形と相関的関係にない。調査者が推定する敷物、あるいは遺体の梱包に関連する物質と考えられる。

⑵　外部付属施設－柱穴様土坑（表５）

長軸上の両端に２本配される形態は後北Ｃ$_2$･Ｄ式期に盛行し、円形･刺突文土器群期まで存続する。初例は江別市七丁目沢６遺跡・縄文晩期後葉（大洞Ａ’並行期）の土坑墓である。未然期・進行期に類例が確認されないが現時点では在地系の形態と考える。四隅に４本配される形態は在地・恵山系の進行・完了期に散見し円形・刺突文土器群期に盛行する。これは下端平面形に関係なくかつ在地・恵山系にあるので両系に自発の形態と考えにくい。初例は釧路市幣舞遺跡・縄文晩期後葉（大洞Ａ’並行期）の土坑墓である。未然期に類例が確認されないが現時点では道東からの波及の影響と考える。

表Ⅶ－４－３　墓坑下端平面形

	H37丘珠	H317	H37栄町 古	H37栄町 新	江別太１	江別太２	後北Ａ	後北Ｂ	後北Ｃ$_1$	後北Ｃ$_2$・Ｄ 古	後北Ｃ$_2$・Ｄ 中	後北Ｃ$_2$・Ｄ 新	後北Ｃ$_2$・Ｄ 不明
円形	12(57%)	7(54%)	5(33%)	3(33%)	7(64%)	12(57%)	14(45%)	8(73%)	2(50%)	24(60%)	18(56%)	14(56%)	49(46%)
楕円形	9(43%)	6(46%)	9(60%)	6(67%)	4(36%)	6(29%)	6(19%)	3(27%)	1(25%)	12(31%)	7(22%)	9(36%)	38(36%)
隅丸方形						3(14%)	10(32%)	0(0%)	0(0%)	3(7%)	3(9%)	0(0%)	10(10%)
小判形	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(25%)	0(0%)	1(4%)	0(0%)	6(6%)
長楕円形			1(7%)				1(4%)						
長楕円形（舟形）										1(2%)	0(0%)	1(4%)	1(1%)
隅丸長方形											3(9%)	1(4%)	2(2%)
時期別合計	21	13	15	9	11	21	31	11	4	40	32	25	106

	アヨロ１	アヨロ２ａ	アヨロ２ｂ	アヨロ３ａ	アヨロ３ｂ
円形	13(65%)	19(31%)	30(52%)	19(56%)	2(100%)
楕円形	6(30%)	37(62%)	26(45%)	14(41%)	0(0%)
隅丸方形	1(5%)	2(3%)	2(3%)	0(0%)	0(0%)
小判形	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
長楕円形		2(4%)		1(3%)	
時期別合計	20	60	58	34	2

＊各平面形には括弧付き平面形（括弧内の平面形に近いと言う意味）を加えた。
＊後北Ｃ$_2$・Ｄ(古)には(古～中)５例を含めた。(中)には(中～新)３を含めた。
＊合葬墓である舟形土坑墓の初例は、十勝若月遺跡の後北Ｃ$_1$(中)の土坑24である。

表Ⅶ－４－４　埋葬姿勢

	アヨロ１	アヨロ２ａ			H36栄町(古)	江別太１	江別太２	後北Ｂ	後北Ｃ$_2$・Ｄ		
	屈葬	屈葬	仰臥屈葬	側臥屈葬	屈葬？	側臥屈葬	仰臥屈葬	側臥屈葬	屈葬	仰臥屈葬	側臥屈葬
円形	1	1		2	1	1	3	1		1	2
楕円形		1	1	2							2
小判形											
隅丸方形											2
隅丸長方（舟形）											
	1	2	1	4	1	1	3	1		1	6

＊各平面形には括弧付き平面形（括弧内の平面形に近いと言う意味）を加えた。　＊後北Ｃ$_2$・Ｄには、(新) １例と（時期不明）６が含まれる。

表Ⅶ－４－５　柱穴様土坑

		アヨロ 1	アヨロ 2ｂ	アヨロ 3ａ	アヨロ 3ｂ	アヨロ 3ｂ	小計	H37丘珠	H317	後北Ａ	後北Ｃ$_2$・Ｄ 古	後北Ｃ$_2$・Ｄ 古	後北Ｃ$_2$・Ｄ 古	後北Ｃ$_2$・Ｄ 中	後北Ｃ$_2$・Ｄ 新	後北Ｃ$_2$・Ｄ 不明	後北Ｃ$_2$・Ｄ 不明	後北Ｃ$_2$・Ｄ 不明	小計
	本数	長軸上	四隅	四隅	不定	四隅		不定	不定	四隅	不定	長軸上	四隅	不定	短軸上	不定	長軸上	四隅	
円形	1	1			1		*2*	1						1					*1*
	2										2					1			*3*
	4			1		1	*2*								1				*1*
楕円形	1						*1*	1											
	2															1	1		*2*
	3							1											
	4		1																*1*
	8								1										
	4+4									1									
小判形	2																2		*2*
	4																		
	5																1		*1*
隅丸方形	2											1					1		*2*
	3																	1	*1*
	4												1						*1*
		1	1	1	1	1		2	1	1	2	1	1	1	1	1	5	1	

釧路市幣舞遺跡・貝塚町１丁目遺跡（澤・岡崎1974）では、四隅４本が坑底から坑口まで突き抜けた状態で検出された。同様の事例は西島松５遺跡にもあり、ここでは堆積状況によっても確認されている。また、江別市七丁目沢６遺跡では、長軸上２本が覆土中に痕跡が確認されているようである。

以上より、柱穴様土坑は上屋構造であることが追認できた（後藤1935、重松1972）。長軸上２本は在地系において自発した構造である。四隅４本は在地・恵山系が道東の影響を受けた構造であり、円形・刺突文土器群期まで継続したことが解かる。

表Ⅶ－４－６　袋状土坑の垂直方向の位置と掘削角度

袋状土坑数		アヨロ 2a 壁面	アヨロ 2b 坑底	アヨロ 3a 坑底	アヨロ 3a 壁面	アヨロ 3b 壁面	小計	江別太１ 坑底	江別太１ 壁面	江別太２ 底と壁の境	江別太２ 壁面	後北A 底と壁の境	後北C₁ 底と壁の境	後北C₂・D 古 坑底	後北C₂・D 古 底と壁の境	後北C₂・D 中 坑底	後北C₂・D 中 底と壁の境	後北C₂・D 新 壁面	後北C₂・D 新 坑底	後北C₂・D 新 底と壁の境	後北C₂・D 新 壁面	後北C₂・D 不明 坑底	後北C₂・D 不明 底と壁の境	後北C₂・D 不明 壁面	小計
円形	下		1	1			2	1						3		1			1			4	2		11
	横	4			3	1	8		1									1							1
	斜			1			1					1								2			2		4
楕円形	下														1	1	1		1			4	1		9
	横													1										1	2
	斜																1			1			6		8
	?				1		1																		
小判形	下															1						1	3		5
	横												1												
隅丸方形	下																					1			1
	横									2	1	2													
	斜														1								1		2
隅丸長方形	斜																			1			1		2
長楕円形（舟形）	下																		3						3
	横														5										5
	斜																1						1		2

＊各平面形には括弧付き平面形(括弧内の平面形に近いと言う意味)を加えた。　＊後北C₂・D(古)には(古～中)３例を含めた。(中)には(中～新)２例を含めた。

表Ⅶ－４－７　袋状土坑の墓坑軸と頭部位置に対する位置

墓坑数		アヨロ 2a 軸なし	アヨロ 2b・3a 長軸上	アヨロ 2b・3a 長軸右側	アヨロ 2b・3a 長軸左側	アヨロ 2b・3a 短軸左側	アヨロ 2b・3a 軸なし	アヨロ 3b 軸なし	江別太１・２ 後北A 長軸上	江別太１・２ 後北A 長軸右側	江別太１・２ 後北A 長軸右隅	江別太１・２ 後北A 長軸左隅	江別太１・２ 後北A 軸なし	後北C₁ 長軸右側	後北C₂・D 古 長軸上	後北C₂・D 古 長軸右側	後北C₂・D 古 短軸上	後北C₂・D 古 短軸片側	後北C₂・D 中 長軸上	後北C₂・D 中 長軸右側	後北C₂・D 中 短軸右側	後北C₂・D 中 軸なし	後北C₂・D 新 長軸上	後北C₂・D 新 長軸右側	後北C₂・D 新 長軸左側	後北C₂・D 新 短軸上	後北C₂・D 新 短軸片側	後北C₂・D 新 軸なし	後北C₂・D 不明 長軸上	後北C₂・D 不明 長軸右側	後北C₂・D 不明 長軸左側	後北C₂・D 不明 長軸右隅	後北C₂・D 不明 長軸左隅	後北C₂・D 不明 短軸上	後北C₂・D 不明 短軸右側	後北C₂・D 不明 短軸片側	後北C₂・D 不明 軸なし
円形	不明	1	1	1	1	1	1	1	1		1		1		1	1	1				1	1	1					1	1		1			1			5
	頭上						1																	1													
楕円形	不明				1											2			1	2						1			4	5	4				1		
	頭上																																				
	頭左																								1												
小判形	不明													1					1											2	1					1	
	頭上																																				
隅丸方形	不明								1	1	1	2			1														2								
	頭上																																				
隅丸長方形	不明																						1									1					
	頭上																																				
長楕円（舟形）	不明																	1		1	1						1									1	
	頭上																																				
		1	1	1	2	1	2	1	2	1	2	2	1	1	2	3	1	1	2	3	2	1	2	1	1	1	1	1	7	7	6	1	0	1	1	2	5

＊各平面形には括弧付き平面形(括弧内の平面形に近いと言う意味)を加えた。　＊墓坑軸欄の「軸なし」は下端平面形が円形で、短長軸が設定できないもの
＊後北C₂・D（古）には（古～中）３例を含めた。（中）には（中～新）２例を含めた。

表Ⅶ－４－８　袋状土坑の墓坑軸と下端平面形に対する位置(主要遺跡別)

			軸なし	長軸上	長軸右側	長軸右隅	右小計	長軸左側	長軸左隅	左小計	短軸上	短軸左側	短軸右側	短軸片側
アヨロ 2a～3b	大川	坑底	1	1										
		底と壁の境												
		壁面	2					1	1					
		小計	3	1				1	1	2				
江別太1～後北A	旧豊平河畔	坑底		1										
		底と壁の境				2			2					
		壁面			1									
		小計		1	1	2	3		2	2				
後北C₂・D	柏木B	坑底	3					1			1			
		底と壁の境		1	1			2	1		1			1
		壁面												
		小計	3	1	1		1	3	1	4	2			1
	ワッカオイA・D	坑底		1	2									3
		底と壁の境		3	1			2						5
		壁面												
		小計		4	3		3	2		2				8
	餅屋沢	坑底	1	2	2									
		底と壁の境	1	4	3			2						
		壁面			1								1	
		小計	2	6	8		6	2		2			1	

＊墓坑軸欄の「軸なし」は下端平面形が円形で、短長軸が設定できないもの

表Ⅶ－４－９　袋状土坑内土器

	深鉢 大	深鉢 中	深鉢 小	深鉢 袖珍	深鉢 注口・小	深鉢 片口・袖珍	鉢 大	鉢 中	鉢 小	鉢 袖珍	鉢 注口・小	鉢 注口・袖珍	鉢 片口・小	鉢 片口・袖珍	浅鉢 大	浅鉢 中	浅鉢 小	浅鉢 袖珍	浅鉢 片口・小
アヨロ３a		1																	
後北C₁			1																
後北C₂・D			4	2	1				5	1	2	1	3						1
古											1								
古・中									5	1	1								
中			1																
中・新												1							
新			2	2	1								2						
不明			1										1						1

⑶　内部付属施設－袋状土坑（表６～９）

初例は進行期（アヨロ２ａ式期）の大川遺跡ＧＰ－676である。未然期の在地系に類例がない、かつ道南にも類例がないことから恵山系から発生した構造である可能性が高い。

垂直方向における設置位置（表６）　恵山系では壁面に横方向に掘削される。在地系では江別太２式以降になると壁面と坑底の境に掘削される例が出現する。後北Ｃ$_2$・Ｄ式期には、坑底に下方向に掘削する例が多く、境に斜め方向に掘削する例が次ぐ。なお、円形・刺突文土器群期では、壁面に斜め方向が多く、壁面に横方向が次ぐ。垂直方向における設置位置の変位は時系的変化である。

下端平面における設置位置（表７）　下端平面形に軸があって袋状土坑の設置位置が細分可能な事例において、偏りがない場合は長軸上：長軸左：長軸右＝１：１：１となるはずであるが、進行～完了期の在地系においては長軸右に設置される例がやや多い。真円形は長短軸が設定できないので袋状土坑と下端平面形との関係は不明である。なお、軸が設定できる円形には偏りがみられない。

頭蓋骨が遺存する例が３例あった。墓坑長軸左にある１例は頭上左に設置されている。頭上に設置される２例（直立した体軸方向において上ということである。顔面上・頭蓋骨上にあるということではない）については、下端平面形が円形であるため不詳である。極少数ではあるが袋状土坑は出現頭初から遺体の頭側に設けられる規則があったと考えられる。ただし、墓坑平面における設置位置が頭蓋骨位置に従属して決定されたかどうかはこのデータからは不詳である。

遺跡ごとに見た設置位置（表８）　平面における設置位置の変位は時系に関わらない。遺跡ごとの変位の可能性があるので、類例の多い５遺跡について検討する。垂直方向における設置位置については、各遺跡とも先述した傾向と齟齬はない。下端平面における設置位置については、後北Ｃ$_2$・Ｄ式期以前には比較できる遺跡数が足りないため不詳であるが、類例が多い後北Ｃ$_2$・Ｄ式期では各遺跡に違いが見られる。柏木Ｂ遺跡は長軸左が多い。ワッカオイ遺跡Ａ・Ｄ地点は長軸上・長軸左・長軸右にあまり多少は見られないが、長軸上がやや多い。餅屋沢遺跡は長軸上・長軸右が多い。少例であるが下端平面における設置位置は遺跡ごとに違いを見せる規則があるといえよう。

袋状土坑の内容物と設置位置には関係があるのだろうか。袋状土坑に内容物がある例は後北Ｃ$_2$・Ｄ式期以降に増加する（**表９**）。内容物が土器である例は長軸上・長軸右が多いことから、設置位置の選択の基準が内容物ではない。なお、副葬土器は注口・片口付き深鉢・鉢の小～袖珍が選択されている。

以上より、袋状土坑は道央の恵山系から発生した構造であり、垂直方向の設置位置に関しては時系的変化である。下端平面における設置位置は遺体の頭側に設けられ、長軸に対する右左は遺跡ごと規則が異なるといえる。

⑸　内部付属施設－置き礫について（表10）

南川葬法の置き礫（以下、Ｍ礫）とウサクマイ葬法の置き礫（以下、Ｕ礫）は道央に少数ある。Ｍ礫は恵山系にやや遅れて在地系に採用される。在地系ではＭ礫と袋状土坑とが併設される例があるので同時に採用された可能性がある。ただしＭ礫の類例は大川・旧豊平河畔遺跡と少数で、併設例は大川遺跡のみである。道央においてＭ礫と両施設併設は石狩川下流～石狩湾西岸に限られた葬法の可能性がある。後北Ｃ$_2$・Ｄ式期のＵ礫は少数・非典型的であり円形・刺突文土器群期に盛行を迎えることから、少なくともＵ礫は南川葬法の終焉と時間を隔てて発生した。道央の自発と考えてよい。

表Ⅶ－４－10　置き礫

	江別太１	江別太２	後北Ａ	後北Ｂ	備　考
Ｍ１	1	1	1		
Ｍ２？	1(袋状1)				頭・土器側にも１個有り
Ｍ４				1	足元側に４個有り

	アヨロ１	アヨロ２ａ	アヨロ２ｂ	アヨロ３ａ	アヨロ３ｂ	備　考
Ｍ１	1	3	3	2(袋状1)		
Ｍ１？		1(袋状1)				坑底中央よりに１個有り
Ｍ２		1	2	2(袋状1)		

	後北Ｃ$_1$	後北Ｃ$_2$・Ｄ古	備　考
Ｕ２？	0	1	頭・土器脇に２個有り

＊「Ｓ」は南川葬法、「Ｕ」はウサクマイ葬法、その後の数字は礫の個数
＊（袋状）とは、袋状土坑が備わる土坑例
＊「？」は典型的でないことを示す。備考参照

表Ⅶ－４－11　副葬品総例数

		墓数	石鏃	石槍	石錐	ナイフ	磨製石器	石核	黒曜石原石	石斧 製品	石斧 未製品	砥石	擦石 敲石	石鋸	凹石	台石 石皿	魚形石器	玉類 琥珀玉	玉類 玉	玉類 管玉	玉類 環	熊形石製品	垂飾	深鉢 大	深鉢 中	深鉢 小	深鉢 深鉢	鉢 中	鉢 小	鉢 鉢	浅鉢 大	浅鉢 中	浅鉢 小	浅鉢 浅鉢	壺 大	壺 中	壺 小	壺 壺	皿	備考
H37 丘珠	坑底	12	5		2	5	1			6	1	3	1		1			3	1			1	1		1		3		1				2	2		1		1		
	坑中	17	6	2	2	2		1		2		1	4			1							1	2	4	4	2		1				2	3	1			1	1	
	坑口	4	2		1		1					2	1													1	1			1				1	2						漏斗状土製品
H317	坑底	7	3		1	2		1		1			1		2			3		1				1	1	1	1	1	1	1	1									アスファルト
	坑中	8	5			2				2			2			1								2	2	1	1					3						1		
	坑口	0																																						
H37 栄町	坑底	23	5			2	7	1		6			1				2	1	4		1		1	3		8·2	9·4		2	1·2				1	1				2·1	粘土
	坑中	10	2	1		1	3		1	2			1					1								1	2												1	
	坑口	4														1								2	1												1			
江別太 1	坑底	9	5			4	3			7			1		1									1	3	4	3·1													異形石器
	坑中	6	2	1			1						1													2	2													
	坑口	2				1	2						1																											
江別太 2	坑底	18	9		2	6	9	1		8		1	2				1				1				2	11·1	7											1	1	漆塗弓、鉄塊
	坑中	12	5		2	2	5	2		1			2					1							1	3									1		1			
	坑口	2	1														1								1															
後北A	坑底	25	8	1	1	5	5	1		8	1	1	3			1									6	7	11										2	1	1	楔形石器
	坑中	12	4	1			1	1		3		1	4											2	2	4·1	1			1									2	
	坑口	1																																			1			
後北B	坑底	10	7	1	1	2	3	1		2								1	1	1				1	1	4·2	4										1	1	1	粘土
	坑中	1																								1														
	坑口	1																								·1	1													
後北C1	坑底	1	1																																					
アヨロ 1	坑底	18	7	2	5	6	5	2		10	1	3	4					3		2						3·2	6·3	·1		1			·1				1	2	4·1	サメ歯、異形石器、漆塗弓
	坑中	10	1				2						2								1			2	2	3	1	·1	·1			1	1				2		2	
	坑口	0																																						
アヨロ 2 a	坑底	18	18	2	4	17	10		2	19		3	4	1	1		1	5	1	4	2		2			22	26·1		1	1		1·1		·1	2		8	9·1		鉄器、矢柄研磨器
	坑中	10	9			1	5			5			1	1		2		1						2	2	2	7·1		·1	3·1			1	1					6	
	坑口	6				1	1			2														2	1	2	1·1				1						2			粘土
アヨロ 2 b	坑底	48	13	3	3	14	12	1		20		5	5				1	2		2	6	1	6		1	16	22·2			1			2	2	1	3	3	14	粘土、鉄器
	坑中	30	9	1	2	2	7	1		3		1	2				1		1	1	1		1	3	8·1	7	4			1	1·1	2	1·1	1·2	1	3	2	1	サメ歯、翡翠勾玉
	坑口	4	2				1			1													1				1					·1				2	1			
アヨロ 3 a	坑底	31	16		3	7	12	2	1	17		4			1			3	1	1			5		2	12·6	8·2			2						2	9·1	1·1	1	粘土、翡翠勾玉、石錘
	坑中	27	19		6	21	13	1	2	5		1			3			1	4				1		2	2·1	3·1			1			1				1			
	坑口	0																																						
アヨロ 3 b	坑底	2	2				2			1																1														
	坑中	2	2	1									1						1						1	1·1	1													
	坑口																																							

		墓数	石鏃	石槍	石錐	ナイフ	磨製石器	石核	黒曜石原石	石斧 製品	石斧 未製品	砥石	擦石 敲石	石鋸	凹石	台石 石皿	方割礫	玉類 琥珀玉	玉類 玉	玉類 管玉	玉類 環	垂飾	深鉢 大	深鉢 中	深鉢 小	深鉢 深鉢	鉢 中	鉢 小	鉢 鉢	浅鉢 大	浅鉢 中	浅鉢 小	浅鉢 浅鉢	壺 大	壺 中	壺 小	壺 壺	皿 小	皿 皿	備考
後北 C2・D	坑底	87	2		1	2	3		1	6		1	3			2	1	3	10	4		2	2·1	12・1	10·1	10·17	4·4	1·2			1·1	1·2						3·1		漆塗弓、紡錘車
	坑中	113	12		1	3	22	5		3			4			2			3					14	9·5	3·7	3·3	2·1			1							·1	·3	矢柄研磨器5、鉄製品2
	坑口	5					1	1															3	2·1	1·1	·1								1						
(古)	坑底	25	1			1	2			2			1			1		1	1				2	6	3	6·6		1	·2				1						2	漆塗弓
	坑中	13	2				3			1									1					5	3·2	1·1														
	坑口	4																						2	1·1	·1	·1													
(中)	坑底	17			1	1	2			1			1											·1	3·1	1	·6	2·1	1			1								
	坑中	14	1			1	1	2								1								5	3·2	3·1		1·2	2·1											矢柄研磨器2
	坑口	1																							1															
(新)	坑底	16	1							1		1					1	1	2					1	6·1	3·3		1·3					·1							
	坑中	12	1				1						2											2	2	·3		1										·1	·2	矢柄研磨器
	坑口																																							
(不明)	坑底	29					1		1	2			1				1		1	7	4		2		2	1·2					·1	·1						1·1		紡錘車
	坑中	74	8		1	2	17	3		2			2				1			2					2	1·1	·2		1·1			1							·1	矢柄研磨器2、鉄製品2
	坑口																																	1						

＊坑中は覆土下部出土資料のこと　＊(古)には(古・中)を含め、(中)には(中・新)を含めた。　＊土器欄の黒丸右側の数値は注口付き、片口付き、把手付き、耳付きなど特殊な形態の器の例数。

表Ⅶ－４－12　副葬品単一例数

		墓数	石鏃	石槍	石錐	ナイフ	磨製石器	石核	黒曜石原石	石斧 製品	石斧 未製品	砥石	擦石 敲石	石鋸	凹石	台石 石皿	魚形石器	玉類 琥珀玉	玉類 玉	玉類 管玉	玉類 環	熊形石製品	垂飾	深鉢 大	深鉢 中	深鉢 小	深鉢 深鉢	鉢 中	鉢 小	鉢 鉢	浅鉢 大	浅鉢 中	浅鉢 小	浅鉢 浅鉢	壺 大	壺 中	壺 小	壺 壺	皿	備考
H37 丘珠	坑底	12									1																		1									1		
	坑中	17		1																					1	1			1			1						1		
	坑口	4																																1						
H317	坑底	7																							1															
	坑中	8	1																						1															
	坑口	0																																						
H37 栄町	坑底	23					1									1								3		2·1	2													
	坑中	10	1				1											1								1	1													
	坑口	4																						1	1												1			
江別太 1	坑底	9																						1																
	坑中	6	1																							1	1													
	坑口	2					1						1																											
江別太 2	坑底	18																							1	2	1											1		
	坑中	12	1					2																		2														
	坑口	2																																						魚形石器
後北A	坑底	25	1																						2	1	7													
	坑中	12	1																					1						1										
	坑口	1																																			1			
後北B	坑底	10																																			1	1	1	粘土
	坑中	1																								1														
	坑口	1																								·1														
後北C1	坑底	1																																						
アヨロ 1	坑底	18	1								1																													
	坑中	10																						1					·1								1		1	
	坑口	0																																						
アヨロ 2 a	坑底	18																								4	8		1									1	1	
	坑中	10	4				1																	1	1		1			1										
	坑口	6								1														1													1			
アヨロ 2 b	坑底	48				1																				4	1								1			2		
	坑中	30	2				3			2											1				3	1					1	1			1					翡翠勾玉
	坑口	4																																						
アヨロ 3 a	坑底	31																							1	2											1	1		粘土
	坑中	27	1				1			1																	1													
	坑口	0																																						
アヨロ 3 b	坑底	2																																						
	坑中	2																																						
	坑口																																							

		墓数	石鏃	石槍	石錐	ナイフ	磨製石器	石核	黒曜石原石	石斧 製品	石斧 未製品	砥石	擦石 敲石	石鋸	凹石	台石 石皿	方割礫	玉類 琥珀玉	玉類 玉	玉類 管玉	玉類 環	垂飾	深鉢 大	深鉢 中	深鉢 小	深鉢 深鉢	鉢 中	鉢 小	鉢 鉢	浅鉢 大	浅鉢 中	浅鉢 小	浅鉢 浅鉢	壺 大	壺 中	壺 小	壺 壺	皿 小	皿 皿	備考
後北 C2・D	坑底	56					1									1			2	1			1	11·1	7·1	4·7	1·2	1			·1	·1							2	
	坑中	51	2				1						1						1					3	3·3	1·1	1·2				1								·1	矢柄研磨器
	坑口	3																					1		1	·1														
(古)	坑底	16																					1	5	7	3·3													1	
	坑中	7	1																					2	1·1															
	坑口	3																					1			·1														
(中)	坑底	13																						3·1	1	·2	1	1												
	坑中	4																						2	·1	1	·1													
	坑口	1																							1															
(新)	坑底	10																						1	4·1	·2	·2													
	坑中	8																						1	1		1											·1	·1	
	坑口																																							
(不明)	坑底	17					1									1			2	1				2		1					·1	·1							1	
	坑中	32	1				1						1						1						1·1	·1	·1				1									矢柄研磨器
	坑口																																	1						

＊坑中は覆土下部出土資料のこと　＊(古)には(古・中)を含め、(中)には(中・新)を含めた。　＊土器欄の黒丸右側の数値は注口付き、片口付き、把手付き、耳付きなど特殊な形態の器の例数。

⑹　墓坑の副葬品について（表11～13）

表11は副葬品を例数で位置ごとに集計した。**表12**は単一の種類のみが副葬された例数のみを位置ごとに集計した。**表13**は複数種副葬された坑底の例数のみを集計した。なお、**表11～13**は例数を数えるので、同じ位置に同じ種類の副葬品が複数あった場合でも「１」と計数する。

表11によって副葬品の全般的傾向をみる。在地・恵山系では未然～進行～完了期を通じて坑底に副葬される例が多い。全期を通じて頻出する副葬品は、在地・恵山系ともに石鏃・掻削器、石斧、深鉢小・深鉢袖珍である。ほかの副葬品は時期や在地系と恵山系によって多少がある。

ナイフは完了期に減少する。魚形石器は、恵山系のアヨロ2ａ～ｂ、在地系のH37栄町～江別太２式期に少数ある。琥珀玉は、恵山系のアヨロ１～３ａ式期に多く、在地系のH37丘珠～H37栄町期に多いが、江別太１式期以降に減少する。恵山系の琥珀玉の多さは道南にはない。管玉は恵山系のアヨロ１～２ｂ式期に、後北C$_2$・D式期とに多い。環は恵山系のアヨロ１～２ｂ式期に多く、江別太２式期に１例ある。

土器は、小～袖珍の深鉢・鉢が選択され、袋状土坑に収納される土器の傾向と似る。鉢・浅鉢は在地系のH37栄町期以降減少する。壷は恵山系のアヨロ１～３ｂ式期に多い。皿は後北C$_2$・D式期に多くなる。

特殊（注口・片口・把手・耳が付く形態のこと）な形態の土器は、在地系のH37丘珠～H317期において副葬しないが、H37栄町期以降になると特殊な壷・深鉢が少数現れる。恵山系のアヨロ１～３ｂ式期を通じて特殊な深鉢・鉢・浅鉢・壷がやや多い。後北C$_2$・D式期には特殊な深鉢・鉢・浅鉢・皿が多い。特殊な形態の土器の副葬は恵山系に始まり進行期に在地系に波及し後北C$_2$・D式期に盛行する。

表12では単一種（組み合わない）で出土する副葬品の傾向をみる。

表Ⅶ－４－13　副葬品組み合わせ例数

	石槍	石錐	ナイフ	掻削器	石斧	砥石	敲石	擦石	凹石	台石	琥珀玉	管玉	玉	深鉢大	深鉢中	深鉢小	深鉢	鉢中	鉢小	鉢	浅鉢小	浅鉢	壷	皿	備考
H37丘珠																									
石　鏃		2	4	1	4	2	2	1	1		2		1			1	1					1			
ナイフ	1				1																				
深鉢中																	1								
浅鉢小																							1		
H317																									
石　鏃		1	1		1						2						1	1							
凹　石														1					1						
琥珀玉												1								1					
H37栄町																									
石　鏃			2	4	2		1			1	2	1				3	3					1	1		
掻削器					2											1	1		1	1	1				
石　斧											1					1			1						
琥珀玉																	1								
深鉢小																	1								
深　鉢																				1			1		
江別太1																									
石　鏃			4	1	5		1								2	2	2								
掻削器					2				1						1	2									
江別太2																									
石　鏃		2	4	7	7	1	2								1	6	3						1		
ナイフ				3	1											2									
掻削器																1	1								
後北Ａ																									
石　鏃		1	3	4	4	1	1									3	2						1		
石　槍			1		1		1			1							1						1		
ナイフ																	1								
掻削器					1			1							1										
石　斧															2	1									
後北Ｂ																									
石　鏃		1	2	3	1							1	1			5	5						2		
石　槍			1		1						1					1							1		
後北Ｃ1																									
石　鏃																1	1								
後北Ｃ$_2$・D																									
石　鏃					1	1							1	1											漆塗弓1
石　錐			1																						
ナイフ				1	1																				
掻削器					1												1・1		1・1						
石　斧																	・1								
敲　石														・1	1										
石皿,台石																1									
琥珀玉													2						1	・1				1	
管　玉													2												
玉																								・1	
深鉢小																・1	1					・1			
深　鉢																	・3		1			1			
アヨロ1																									
石　鏃	1	5	5	5	4	2	2									3	2			1			4		
石　槍					1												1						1		
ナイフ																	1								
石　斧								1			2	1				1	2	1					2		
砥　石								1									1						1		
琥珀玉												1					1				1				
アヨロ2ａ																									
石　鏃	1	2	8	7	9	3	2	1	1			2	1			8	5					1	9		
石　錐			1	1												1							1		
ナイフ				1	3						1	1				4	5			1			2		
掻削器					1						1					1									
石　斧							1				1	1				2	4	1							
琥珀玉																1	1						1		
アヨロ2ｂ																									
石　鏃	1	2	9	8	9	3	4					2				5	10			2	1	1	6		
石　槍			1		1											1									
石　錐					1																		1		
ナイフ				2	3	1	1				1				1	3	3						1		
掻削器																	1				1		2		
石　斧						1	1					1				2	5						2		
アヨロ3ａ																									
石　鏃		2	5	8	11	2			1		3	1			1	11	2			1			6	1	
石　錐			1		1												1						1		
ナイフ					1																		1		
掻削器					3	1							2			2	3			1			1		
石　斧																1									
砥　石																1	1						1		
アヨロ3ｂ																									
石　鏃				2	1											1									

後北Ｃ$_2$・Ｄ期の玉類を除くと石器類・玉は組合せで副葬される。一般に土器は単一副葬の傾向が顕著であるが、深鉢小・深鉢袖珍は組合わせで副葬され、鉢・浅鉢は単一副葬が顕著であり、特殊な形態は器種を問わず組合わせが顕著である。

表13ではどのような組み合わせがあるのか副葬の意図が確かな坑底資料に限ってみる。石鏃は石斧・深鉢小・深鉢袖珍・壷と組合い、H37栄町期以降顕著になる。

石斧は石鏃と強い相関が有り、石鏃と組合わない場合には深鉢小・深鉢袖珍と組合わさる。石斧の傾向は石鏃と類似している。

玉類は、玉類・石鏃・深鉢小・鉢小・浅鉢小・深鉢袖珍・鉢袖珍と組合う。玉類は石鏃と強い相関があるいっぽう、石鏃と組合わない場合には玉類・深鉢小・深鉢袖珍と組合わさる。このことから玉類の傾向は石鏃と似ているが異なる反面がある。

深鉢大・深鉢中・鉢中は剥片石器とほとんど組合わない。各規格の鉢・浅鉢は、在地系はH37丘珠～H37栄町期まで剥片石器と相関し、江別太１式期以降は単一副葬となる。恵山系は頭初（アヨロ１式期）から単一副葬の傾向が強い。

以上のように、特定の遺物どうしが特定の関係にあることが読み取れる。例えば「石鏃は、石斧・深鉢小・深鉢袖珍・壷と組合う」それとは相反して「深鉢大・深鉢中・鉢中は、剥片石器とほとんど組合わない」である。

副葬品に特定組合わせが生じる原因として被葬者の性差が考えられる。当該期の道央において性差が判別できた例が１例ある。男性が埋葬された大川遺跡ＧＰ－218（H317期）から深鉢袖珍・石鏃・琥珀平玉が出土している。また地域は異なるが、幣舞遺跡ではH37丘珠～H37栄町併行期の土坑墓で男性10例女性３例が判別さている。幣舞遺跡例では、石鏃・石斧は男性墓、女性墓には副葬品が極めて乏しく琥珀玉があった。加藤邦雄も噴火湾岸の事例を挙げて石鏃・石斧が男性墓に副葬されることを明らかにしている（加藤1982）。

表Ⅶ－４－14　合葬・追葬例

番号	遺跡名	遺構名	遺構の時期	主体部	外部施設		内部付属施設						副葬品の位置			備考
					柱穴様土坑		袋状土坑									
				下端平面形	個数	墓坑に対する平面位置	個数	垂直位置	墓坑・柱穴に対する平面位置	遺体に対する平面位置	掘削方向	内容物	坑底	坑中	埋土上面/坑口脇	
H37栄町期																
41	紅葉山33	ＧＰ－63	古	円									深鉢小1、甕小1(アヨロ1？)、鉢小1→頭上、石斧2			2体合葬(人骨位置より)
江別太2																
53	大川	Ｐ－95		円									深鉢小2、石鏃6、石斧1			2体合葬(人骨位置より)
後北Ａ																
28	旧豊平河畔	墓178		楕円	4+4	四隅							深鉢1			追葬？(柱穴様土坑8個より)
後北Ｂ																
11	萩ヶ岡	墓112		円									深鉢小1→頭右、壷小1・深鉢小1(後北A)→頭上、石鏃58、掻削器3	深鉢小１		2体合葬(人骨位置より)
53	大川	Ｐ－88		円									深鉢小1、甕小2(アヨロ3)、壷中1(アヨロ3b)→頭左、石槍1、ナイフ1、石斧1、琥珀平玉9			2体合葬(人骨位置より)
アヨロ2ｂ																
41	紅葉山33	ＧＰ－22		円									深鉢小1、深鉢2、壷1→頭右、石鏃63、ナイフ11、砥石4、石錐2、石斧5、環3、石核2、	環１		3体合葬(人骨位置より)
51	大川	ＧＰ－131		円									甕小2			追葬？(人骨が46cm浮く)
53		Ｐ－104		円？									甕1→頭右、石鏃11、石槍2、ナイフ1、掻削器3、石斧5、砥石1			2体合葬(人骨位置より)
アヨロ3ａ																
49	大川	ＧＰ－243		円									甕小1→両頭圓、石鏃19、石錐2、掻削器3、琥珀玉4	石鏃11、石錐２		2体合葬(人骨位置より)
50	大川	ＧＰ－620		円	4	四隅	並列2	壁面坑底	短軸左側長軸右側		横斜		甕小1、耳付深鉢小1、壷小1、石鏃300＜、掻削器3、石斧1、管玉8	甕中２、鉢１、石錐３、掻削器１、石斧１		4体合葬(人骨位置より)
後北Ｃ$_2$・Ｄ																
2	タプコプ	ＧＰ－８	古	円			1	坑底	短軸上		下			深鉢小1、石鏃8、掻削器2、ガラス玉13		追葬？(人骨が15cm浮いている)
2		ＧＰ－33	古	隅丸方	4	四隅								深鉢中１、注口深鉢小１		合葬(人骨位置より)
43	ﾜｯｶｵｲ・D	20号土坑墓	古・中	長楕円(舟形)			並列5	底と壁の境	短軸片側		横	鉢小4、鉢1	鉢小2、注口鉢1、皿小1→頭上、琥珀平玉34			9体合葬(追葬も含まれている可能性が高い)
44		32号土坑墓	中	円									浅鉢小1→頭右	注口鉢小１		追葬？(遺物の平面的位置が下層の27号と一致する)
44		29号土坑墓	中	長楕円？									注口鉢小1→頭右、掻削器1			2体以上合葬(人骨位置より)
43		11号土坑墓	新	円			1	底と壁の境	長軸右側	頭上	斜	深鉢1				2体合葬(人骨位置より)、袋状土坑(1体の頭上)
43		17号土坑墓	新	円			1	底と壁の境	長軸上		斜	深鉢小1				2体合葬(人骨位置より)、袋状土坑(2体間の頭上)
9	柏木Ｂ	39号土坑墓	新	楕円									注口鉢小1			合葬？(長軸長より)
44	ﾜｯｶｵｲ・D	26号土坑墓	新	楕円									深鉢小1、注口深鉢小1、深鉢1→頭上、方割礫8			4体合葬(人骨位置より)
44		24号土坑墓	新	楕円？			1	底と壁の境	長軸左側	頭左	斜	深鉢1	注口皿小1、把手付片口深鉢1	片口皿小１、把手付片口深鉢１		2体以上合葬(人骨位置より)
44		25号土坑墓	新	楕円(舟形)									深鉢小1、注口浅鉢1→頭左、土玉4	把手付注口皿小１、		追葬(遺物の平面的位置が下層の26号と一致する)
44		33号土坑墓	新	楕円？									注口鉢小1→頭右			追葬？(人骨位置は2体合葬であるが、遺物の平面的位置が下層の23号と一致する)
49	大川	ＧＰ－110	新	楕円									深鉢小2→頭上			2体合葬(人骨位置より)
44	ﾜｯｶｵｲ・D	28号土坑墓	新	長楕円(舟形)			並列3	坑底	短軸片側		下	片口鉢小2注口深鉢1	土玉1、琥珀玉5、玉98			3体合葬(袋状土坑3個より)
48	餅屋沢	10－40Ａ	?	円	2	不定								土器片、掻削器１		3体合葬(人骨位置より)
48		11－41Ｂ	?	円									土製管玉19、有孔石1			3体追葬(人骨位置のずれより)
49	大川	ＧＰ－７	?	円									深鉢？1、石斧1			4体合葬(人骨位置より)
48	餅屋沢	9－39Ｂ・Ｃ	?	隅丸方？									土製管玉5、管玉2、垂飾2(全てＣ土坑出土)			追葬(人骨位置のずれより)
44	ﾜｯｶｵｲ・D	22号土坑墓	?	長楕円(舟形)			1	底と壁の境	短軸片側		斜		平玉70、管玉2	石鏃１		6体合葬(人骨位置より)、袋状土坑(1体の頭上)

＊置き礫の欄の「M」は南川葬法と似た配置、「U」はウサクマイ葬法と似た配置。土器の後の「→頭～」は頭蓋に対する土器の位置を表す。

以上より、石鏃・石斧・深鉢小・深鉢袖珍・壷は男性墓に副葬され、深鉢大・深鉢中・鉢中は女性墓に副葬された可能性があり、玉類は両性の墓に副葬されたと推定できる。なお、幣舞遺跡例から女性墓には土器・石器類はないが、繊維製品など遺存しにくい有機質の副葬品があったと考えられる。このことから、遺物が出土せず時期不明と判断された墓の多くは女性の墓ということになる。女性墓の事例が不足しがちな理由はこれによると考えられる。

⑺　合葬・追葬について（表14）

合葬墓の特徴は、平面形は単葬墓と同じだが、規模が大型である（後北C$_2$・D式期では合葬・追葬専用の平面形である舟形土坑が登場する）こと、複数遺体が坑底に整然と安置されること、付属施設が遺体数に相応して設けられないことがあげられる。

追葬の特徴は、平面形は単葬墓と同じで、規模も単葬墓に等しいこと、人骨が坑底から浮いていたり、ずれがあったりすること、柱穴様土坑が複数組設置されることがあげられる。人骨が原位置を保っていないことに関しては墓坑を共有したことがうかがえ、柱穴様土坑に関しては墓坑を共有して外部付属施設のみを変更する意図がうかがえる。

このようなことから、切り合いと報告されたワッカオイ遺跡D地点10(11に追葬、以下追葬を略す)・25(26に)・32(27に)・33(23に)号土坑墓は、平面形や遺物平面位置が上下で重なることから追葬と考えられ、8（9に）・12(13に)・14（1に）・16(20に)・24(23に)・29(26に)号土坑墓はその可能性が高い。

20号土坑墓は一見合葬墓に見えるが、歯から推定した遺体数9に対して土器は9個ある。そして、舟形土坑墓は通常短軸に遺体体軸を向けて安置されるが、この墓のP.42（土器）とT.1（歯）とが示す遺体は、短軸上に安置されたとすると軸長が他に較べて短く不自然である。遺体を安置するには遺体軸を墓坑長軸と斜交させなければならない。加えて、この遺体が安置されている北側端の平面形態は反対側の形態と異なり、別な意図が加わったとみられる。以上より、20号土坑墓では追葬が行われたと考えられる。

副葬品の種類は単葬墓と同じである。組合わせにおいて被葬者の性差に偏りがみられる。偶数遺体が埋葬されかつ性の選択が生じていない場合、男の組合わせ：女の組合わせ＝1：1で副葬されているはずである。偶数遺体合葬例13中、7例は全て男性の組み合わせで、2例は男性の組み合わせが殆んどで両性に組合わさるものが混じる。また、追葬例6中においては男や女の組合わせに偏る例はないが、5例が両性に組合わさるもののみで副葬品が構成されていた。

くわえて、円形・刺突文土器群期の西島松5遺跡の追葬例17例中、7例は男性の組合わせ（大刀・横刀・鉄鏃に偏る）、4例は女性の組合わせ（副葬品なし）であった。なお、当該期と擦文文化期における性ごとの副葬品組合わせに関しては鈴木（1999）が言及しており、アイヌ文化期のそれについては鈴木（2000）が言及しているが当該期と擦文文化期と共通する状況である。

副葬品の組合わせの偏りから性別の偏りがうかがえた。「同性を同じ墓坑に埋葬する」規則があった可能性が高い。「同性を同じ墓坑に埋葬する」とはどのような関係に基づいていたのだろうか。具体的には家族（核家族と拡大家族）であり、親族（血族・姻族）を含む関係である可能性がある。

合葬の場合は、少人数は家族埋葬、多人数は血族・姻族を含む広汎な被葬者が想定できる。ただし、人数の多少を具体的な数字で表すことはこのデータからは困難である。

追葬の場合は、少人数（2名が多く3名は極少ない）で時間差があることから、少人数かつ系脈があると推測できる。このことから限られた被葬者が想定でき、2世代の家族（3世代は極少ないが、その場合には核家族の血族、拡大家族の血族・姻族が想定される）埋葬と考えられる。さらに、男性は男性へ、女性は女性へと系脈をつなげることから男系・女系の両系が想定される。

⑻　表出的属性と内在的属性から見た墓構造の系譜について（表15）

道央の墓制は道南や道東からの影響を受け、さらに在地系と恵山系で属性交換を行っている。道南からは下端平面形・南川葬法の置き礫があり、恵山系がアヨロ１式期に受け入れ、在地系が遅れて恵山系から導入した。道東からは下端平面形・柱穴様土坑の配置である。舟形土坑は後北Ｃ$_2$・Ｄ式期に導入した。四隅４本はH37丘珠期以前に在地系が受け入れ、遅れて恵山系が在地系から導入した。道央自発の属性には柱穴様土坑の配置と袋状土坑がある。長軸２本はH37丘珠期以前に在地系に自発した。袋状土坑はアヨロ２ａ式期に恵山系で自発して在地系に受け入れられた。

内在的属性とは埋葬が終了した墓からは窺い知れない情報で、ヒトからヒトへの伝達は葬送の時間・場面の共有が必要となる（家族・親族関係的）。いっぽう表出的属性とは埋葬が終了した墓からでも理解できる情報で、ヒトからヒトへの伝達は葬送の時間・場面の共有は必要としないし、伝聞だけを介して伝達可能である（非家族・親族関係的）。そして、内在的属性は表出的属性に較べてより深層的な属性であるといえる。下端平面形・主体部構造・内部施設・埋葬姿勢は内在的属性、外部施設は表出的属性にあたる。中間的属性とは内在的属性と表出的属性の両方の性質が備わる。坑底副葬品があたると思われる。個人の特殊な意図を含む場合は副葬品の組成内容の伝達に時間・場面の共有を必要とし、大きい規模の集団を表す意図がある場合は時間・場面の共有を必要としないであろう。

内在的属性の交換方向は道南→恵山系→在地系・恵山系自発→在地系・道東→道央が認められる。表出的属性の交換方向は道東→在地系→恵山系・道東→在地系が認められた。そして、属性交換の時系的伝達は、追葬の状況から男・女系によってなされると想定された。両系によって統御された異なるレベルの属性が異なる地域と交換された。内在的属性はおもに道南・恵山系から、表出的属性は道東から波及する。在地系と道南・恵山系との関係は家族・親族関係的に偏るといえる。

なお、石鏃・石斧など性別・生業を反映する副葬品は、生業における性分業が反映されていると解釈でき、生業も墓制と同様に両系によって統御されていることを示唆する。　（鈴木）

表Ⅶ-4-15　属性の変遷

					未然期			進行期					完了期	
					H37丘珠	H317	H37栄町		江別太１	江別太２	後北A	後北B	後北C$_1$	後北C$_2$・D
							アヨロ１	アヨロ２ａ	アヨロ２ｂ	アヨロ３ａ		アヨロ３ｂ		
表出的属性	外部施設	柱穴様土坑	長軸２本	在地系	自発									
				恵山系										
			四隅４本	在地系	道東から									
				恵山系			在地から							
内在的属性	下端平面形	円形		在地系										
				恵山系										
		楕円形		在地系										
				恵山系										
		隅丸方形		在地系						恵山系から				
				恵山系			道南から							
		小判形		在地系										
				恵山系										
		舟形		在地系										道東から
				恵山系										
		隅丸長方形		在地系										自発
				恵山系										
	主体部	構造	土坑	在地系										
				恵山系										
			木槨	在地系										
				恵山系					（出自不明）					
	内部施設	袋状土坑		在地系					恵山系から					
				恵山系				自発						
		置き礫	南川	在地系					恵山系から					
				恵山系			道南から							
			ウサクマイ	在地系										自発
				恵山系										
	埋葬姿勢	屈葬		在地系										
				恵山系										
		側臥屈葬		在地系										
				恵山系										
中間的属性	坑底副葬品	琥珀玉		在地系										
				恵山系										
		管玉		在地系										
				恵山系										
		環		在地系										
				恵山系										
		魚形石器		在地系										
				恵山系										
		特殊な器形の土器		在地系										
				恵山系										

＊帯の濃淡は類例の多寡を示す（濃：頻出、淡：寡出）。網かけは類例があることが予想される。

Ⅶ章－１～３　引用参考文献

明石博志ほか　1971『平和遺跡』浦幌町教育委員会
宇田川洋　1976『釧路川中流域の縄文早期遺跡―金子遺跡―』北海道標茶町教育委員会
遠藤香澄　1996「土器について」『滝里遺跡群Ⅵ』　北埋調報98
1998「北海道芦別市滝里４遺跡のⅠ群ａ類土器について」『北方の考古学』野村崇先生還暦記念論集刊行会
大沼忠春　1999「北海道地方　早期～晩期」『縄文時代　第10号』縄文時代文化研究会
大場利夫　1962「白老町虎杖浜遺跡の発掘調査について」『北方文化研究報告』17
Katoh, T. and Niida, K.（1983）'Rodingites from the kamuikotan Teotonic Belt, Hokkaido, *Journal of the Faculty of Science* Series 4 vol. 20, 2－3 pp. 151－169. Hokkaido University
木村英明　1981『柏木Ｂ遺跡』北海道恵庭市教育委員会
河野本道・宇田川洋他　1970『江別市史』
後藤寿一　1933「北海道原始文化聚英」犀川会刊（北方歴史文化叢書『北海道先史時代考』北海道出版規格センターＳ51所収）
札幌市教育委員会1989『新札幌市史』第一巻　通史一
竹田　輝夫1956「北海道虻田郡豊浦町アルトリ遺跡出土の遺物について」『上代文化』26
日本考古学協会釧路大会実行委員会1999『海峡と北の考古学シンポジュウムテーマ１』
羽賀　憲二　1976「道央部における縄文時代早期、平底土器群の様相について」『北海道考古学』第12輯
函館市教育委員会　1977『函館空港第４地点・中野遺跡』
番場　猛夫　1972「北海道産のいわゆる「日高ヒスイ」について」『鉱山地質』22
1980「北海道日高千栄産クロム透輝石ヒスイ」『宝石学会誌』Vol. 7No. 1
北海道埋蔵文化財センター　1982『白老町　虎杖浜３遺跡』北埋調報11
北海道埋蔵文化財センター　1992『函館市　中野Ａ遺跡』北埋調報79
北海道埋蔵文化財センター　1996『函館市　中野Ｂ遺跡』北埋調報97
北海道埋蔵文化財センター　1996『函館市　中野Ｂ遺跡（Ⅱ）』北埋調報108
北海道埋蔵文化財センター　1998『函館市　中野Ｂ遺跡（Ⅲ）』北埋調報120
北海道埋蔵文化財センター　1999『函館市　中野Ｂ遺跡（Ⅳ）』北埋調報130
北海道埋蔵文化財センター　2001『赤井川村　日の出４遺跡・日の出10遺跡』北埋調報161
八幡　一郎　1936「日本新石器時代初期の石器」『民族学研究』第２巻３号（日本石器時代文化　鎌倉書房　Ｓ22所収）

Ⅶ－４引用文献

青野友哉　1999「大洞～恵山式土器の墓と副葬品」『海峡と北の考古学シンポジュウムテーマ２・３』日本考古学協会
江別市教育委員会　1998『七丁目沢６遺跡』
加藤邦雄　1982「道南・道央地方の墳墓」『縄文文化の研究』６
後藤壽一　1935「石狩国江別町に於ける竪穴様墳墓について」『考古学雑誌』25巻５号
釧路市教育委員会1994『幣舞遺跡』
澤四郎・岡崎由夫　1974「自然・先史編」『新釧路市史』

重松和男　1972「北海道の古墳墓について２」『北方文化研究』６
鈴木　信　1999「北大式期以降の墓制について」『海峡と北の考古学シンポジュウムテーマ２・３』日本考古学協会
鈴木　信　2000「Ⅵ－３,付記３アイヌ文化期の副葬品と性について」『千歳市ユカンボシＣ15（３）』北海道埋蔵文化財センター
鈴木　信　2003「道央部における続縄文土器の編年」『千歳市　ユカンボシＣ15（６）』北海道埋蔵文化財センター